休　館	月曜日、但し11月23日(祝・月)は開館、11月24日(火)を休館
入館料	大人:800円　65歳以上・大学・高校生:500円　中・小学生:250円 団体:2割引(大人・大学・高・中・小学生の団体20名以上) ※団体でご来館の際には、事前に電話にてお問い合わせください。
開館時間	午前10時〜午後4時30分(入館は4時まで)

イベント
※要入館料
(定員40名)

アート・レクチャー ―― その1 10月25日(日)　<午後2時〜3時30分>
その2 11月 3日(祝・火) <午後2時〜3時>
その3 11月23日(祝・月) <午後2時〜3時>

アート・トーク ―― 12月13日(日) <午後1時〜3時>

スライド解説 ―― 9月27日(日)／10月18日(日)／11月1日(日)
11月22日(日)／12月6日(日) <午後2時〜3時>

公益財団法人
白鶴美術館
HAKUTSURU FINE ART MUSEUM

〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手 6-1-1
お問い合わせ先
TEL / FAX 078-851-6001

白鶴美術館
http://www.hakutsuru-museum.org/
※携帯電話のご利用マナーにご協力ください。

HAKUTSURU

陶色遊覧

2020年 白鶴美術館 秋季展

▶ 本館　taoseyoulan

古来、素材に恵まれ、発展を遂げてきた中国陶磁。各時代に生み出されてきた美しい器の色は、長く世界を魅了してきました。当館にはその優品が所蔵されています。今回の展示では、唐・宋・明の時代ごとに特徴的な色調を軸にしつつ、その変容をみていきたいと思います。

明

赤と金

金時代の磁州窯系に淵源を有する上絵付け（釉上彩）技法は、いつしか景徳鎮へ伝播し、やがて明時代成化（1465〜87）の官窯御器廠（ぎょきしょう）で「豆彩」と呼ばれる品格ある五彩（色絵）として頂点に達します。その後、急激に生産量が増加した嘉靖（1522〜66）から万暦（1573〜1620）頃に、五彩は全盛期を迎え、その代表作が華やかな「五彩魚藻文壺」で、一方、五彩に金箔や金泥で装飾を施した絢爛豪華の極みと言えるのが、民窯の「金襴手」です。

「五彩魚藻文壺」
明時代

重要文化財
「金襴手獅子牡丹唐草文八角大壺」
明時代

宋

青と黒

「青磁鳳凰耳花生」
南宋時代

「黒釉銹斑文茶碗」
北宋時代

灰釉を基本とする青磁と黒釉。どちらも鉄分の発色といいます。左の花生は、「砧青磁」として有名な南宋青磁で龍泉窯の器。龍泉窯は、「ひそく」（秘色）青磁で有名な古越磁（越州窯）の影響を受けたとされます。銹（さび）色が美しい釉色の茶碗は「河南天目」と呼ばれる華北産です。後漢時代に展開し始める黒釉は、先の越州窯にもみられ、その生産が早い段階で広範囲に行われていることもわかっているのです。

唐

緑と黄

陶磁器の中でもよく知られる唐三彩は、鉛釉で彩られています。中国では、鉛釉は漢時代から用いられてきましたが、唐時代に緑、黄、白を基本とする三彩が確立すると、点彩、筋がけなど釉による表現の幅は飛躍的に広がりました。西域の息吹きを感じさせる「唐三彩鳳首瓶」では、釉色が交じり合いながら、文様を浮かび上がらせ、平面に雁と蓮の葉を描く「唐三彩荷葉飛雁文盤」では、釉色そのものが蝋抜き技法と共に文様を形づくっています。

「唐三彩荷葉飛雁文盤」
唐時代

「唐三彩鳳首瓶」
唐時代

▶ 新館　jyutantoiro

絨毯十色

クチャン、ペルシア東部
20世紀中期

ザカタラ、コーカサス
1850年頃

タリッシュ、
コーカサス
1900年頃

絨毯の画や文様は、染めたパイル糸を使って表わされています。古典的な近代中東絨毯において最も使われた色といえば、赤。続いて紺（青）・黄の三原色と白色が多く、中間色やピンクや水色などの薄い色の組み合わせは、欧米の好みが反映した工房絨毯に多いとされます。多くの色彩を適切に配色するのは表現技術のひとつですが、逆に数少ない色を有効に使うのも表現力のひとつといえるでしょう。

今回は、近代中東絨毯の色とその素材、配色構成に注目してみたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため、会期の変更や入場制限等を行う場合があります。最新の情報は当館ホームページか電話でご確認ください。

Event ※要入館料（定員40名）

アート・レクチャー

その1
日　時▶ 10月25日（日）＜午後2時〜3時30分＞
テーマ▶「戦国武将の舶来趣味-南蛮渡来の染織品-」
講　師▶ 関西学院大学文学部教授　河上 繁樹氏

その2
日　時▶ 11月3日（祝・火）＜午後2時〜3時＞
テーマ▶「陶芸家の釉技探訪あれこれ」
講　師▶ 陶芸家　天坊 昌彦氏

その3
日　時▶ 11月23日（祝・月）＜午後2時〜3時＞
テーマ▶「立体文化財修復のお仕事」
講　師▶ 箭上文化財修復代表　田川 新一朗氏

アート・トーク（美術に親しむ会）

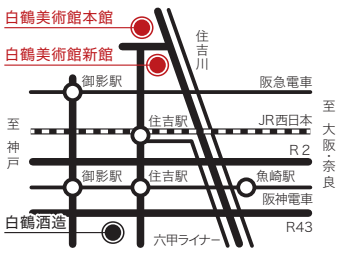
日　時▶ 12月13日（日）＜午後1時〜3時＞
テーマ▶「唐・宋・明の陶磁器、この一点！」
講　師▶ 当館学芸員

スライド解説

日　時▶ 9月27日（日）／10月18日（日）
11月1日（日）／11月22日（日）
12月6日（日）＜午後2時〜3時＞
テーマ▶「60分で中国陶磁名品めぐり」
講　師▶ 当館学芸員

Access

公益財団法人 白鶴美術館
〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手 6-1-1



■ 阪神御影駅、JR住吉駅から
市バス38系統渦森台行「白鶴美術館前」下車

■ 阪急御影駅から
北東約1km（徒歩約15分）

■ お車でお越しの場合
阪神高速道路3号神戸線、
大阪方面：魚崎出口から約1.5km
姫路、明石方面：摩耶出口から約6km
無料駐車場あり（大型バスも可）

次回開催について

次回春季展は2021年3月6日（土）から開催の予定です。